

第3部
災害発生時の地域全体における
BCP対策について

特定非営利活動法人

Hand Over Japan

佐藤 純



本日の内容

- ・能登半島地震から学ぶ
 - 被害と避難
 - 仮設住宅での生活を想像してみましよう
 - 地域BCPの必要性
 - 2つの連携
 - 物事を捉える視点



令和6年能登半島地震から学ぶ～被害と避難～

能登半島地域は高齢化率50%以上の過疎地域も多い



石川県HPより：能登半島地域



家屋が損壊しライフライン途絶

避難所は避難所は100以上
地域の人達が自然と集まり避難所化した

1.5次避難

2次避難

仮設住宅

避難所や壊れた自宅へ

親族の元へ

仮設住宅での生活を想像してみましょう



写真: 講師撮影

自宅に住めなくなって、
さまざまな地域から
引っ越して生活をしています。

- ①家の片付け②行政での手続き
- ③仕事がなくなってしまった
- ④これからの生活に関して不安なことや思う事がたくさんあります。

ここでは、何が必要か？



片付け

- ・人手
- ・時間
- ・道具(トラックや重機)

仕事がなくなってしまった

- ・次の仕事
- ・その間の生活費
- ・必要書類の準備
- ・社員が亡くなった心の傷

行政の手続き

- ・役所に行く手段
- ・申請の内容の理解
- ・必要書類の準備

これからの生活

- ・自宅の建物の改修費
- ・解体するか修繕するかの選択
- ・仮設住宅への入居準備
- ・仮設住宅のその先

人こそが最大の支え＝繋がり



地域連携BCPの必要性（事例）

被災地内



Aクリニック

クリニックBCPあり

事業継続一部可能

◎建物被害ほぼなし

◎発電機、電気自動車あり

▲水（給水所利用）

▲人員やや不足

<支援要請>

・キャパ以上の対応

（発熱外来対応）

<気づき>

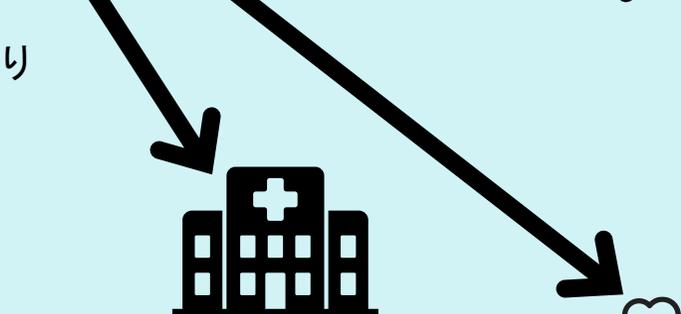
・役所や保健所の休日の連絡先を知らない

・誰に何を言ったらいいのか

<良かったこと>

避難していた医療従事者とやれることをやった

BCPの足りなかったことに気づけた



一番近い医療機関まで2時間



B町役場



石川県

被災地外

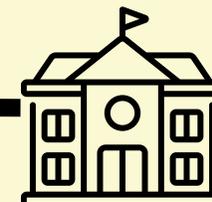


日本医師会

JMAT

AMAT

DMAT



区市町村職員



都道府県職員



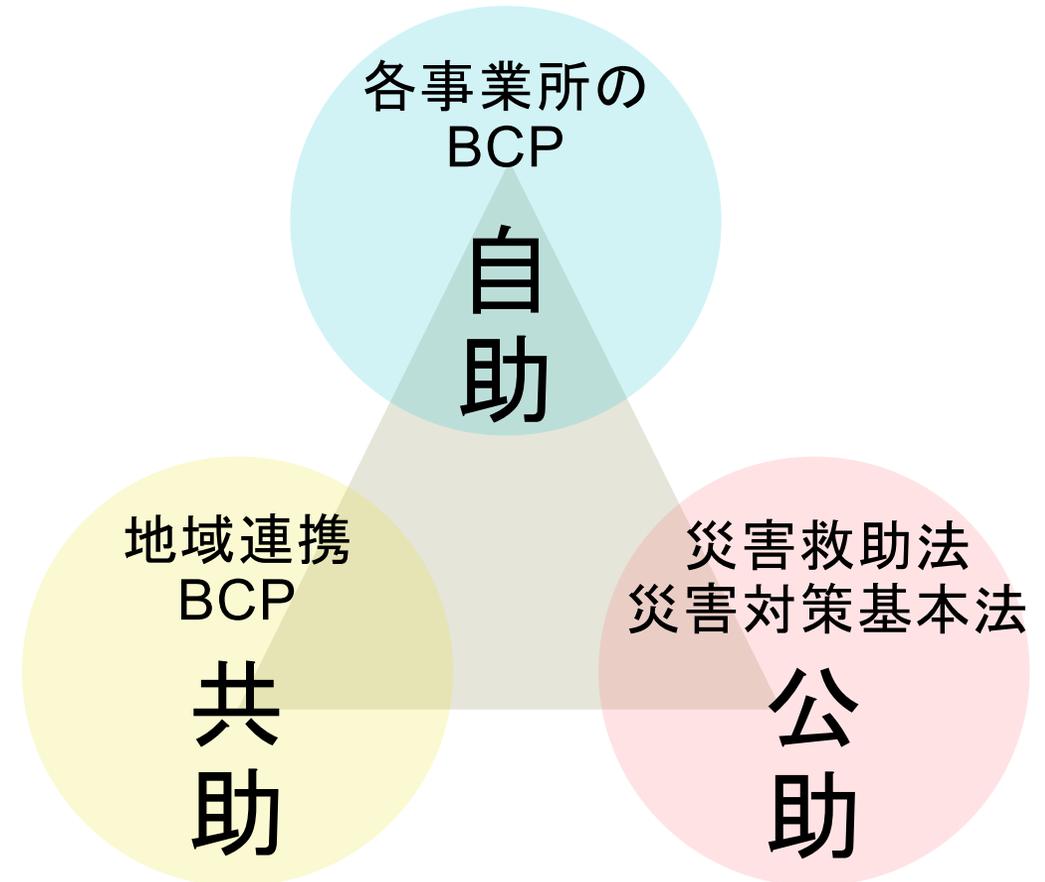
地域連携BCPの必要性

BCP(事業継続計画)=廃業させないための計画

廃業しないために必要な3つのこと

- ・ 従業員確保（ヒト）
- ・ 利用者や入居者などの確保（カネ）
- ・ 安全な事業所や移動手段の確保（モノ）

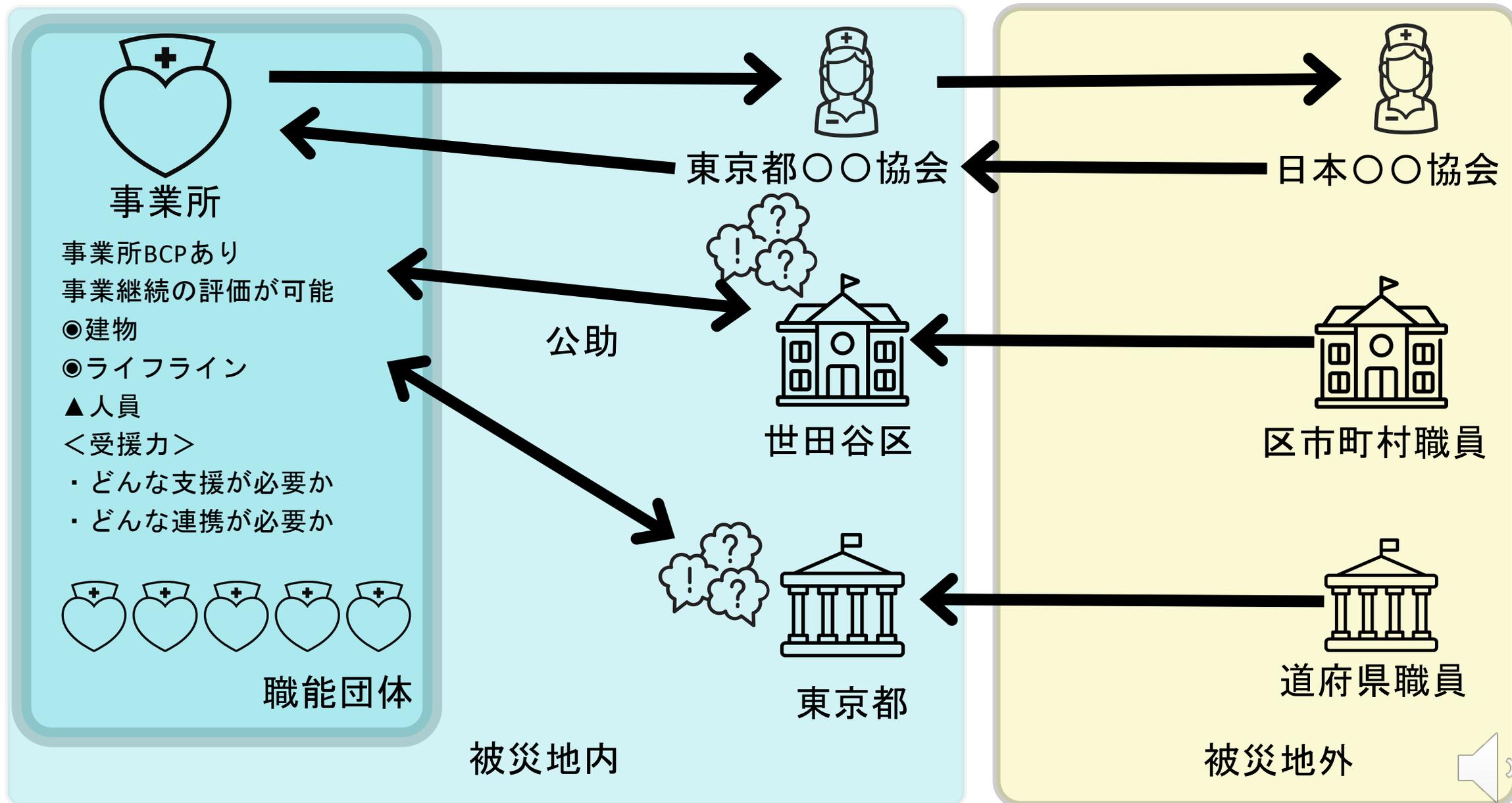
地域を守るために連携をしていくか
世田谷区が破綻しないために必要なこと
共助（地域連携BCP）を考える



2つの連携

被災地内での連携・被災地外との連携

bestでなく betterを目指す



物事を捉える視点

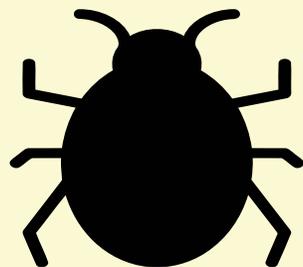
鳥の目



全体を捉える

広い範囲で
視界を広げる
地域で何が
起きているのか

虫の目



くまなく調べる

細かいこと
注意深く見る
家族や施設で
何が起きているか

魚の目



流れを感じる

流れやトレンド
繋がりを知る
国や自治体の情報
フェーズを知る

蝙蝠の目



発想を崩す

固定概念を
覆す
平時に捉われない
対応ができるか



まとめ

- ・地域で連携するためのBCPが必要
- ・自事業所のBCPを持ち寄って地域BCPを考える
- ・角度を変えた視点を地域に向けて、自分たちが何ができるか、すべきなのかを改めて検討する

**地域でしか解決できない問題は何かを整理し、
行政や職種を超えた繋がりを創っていきましょう！**

